

もくじ

▽私の生理人類学（実践女子大・山崎和彦）	1-2
▽第12回国際生理人類学会議開催のご案内（会議長・勝浦哲夫）	2
▽「人間科学の百科事典」書評（千葉大・岩永光一）	3
▽研究奨励発表会報告（関西地区）（神戸大・中村晴信）	3-4
▽研究室紹介（国立精神・神経医療研究センター・太田英伸）	4-5
▽研究満喫（元若手の会々長・本井碧）	5-6
▽国際シンポジウム傍聴記（国立精神・神経医療研究センター・元村祐貴）	6
▽from Editors	6-7

【私の生理人類学】

山崎和彦（実践女子大学）

1975年、日本人類学会日本民族学会連合大会が八王子セミナーハウスで開催された。これが学会発表における私の初陣である。その頃、佐藤方彦先生は会場前列に座っておられたので、教室一門の若手は先生の表情を気に掛けながら発表するのが常であった。

先生の笑い声は高らかである。これが発せられると会場の空気が変わる。私が働いた無礼をリセットするべく、大声で笑って下さったこともあったのだろうと今頃になって思う。以前ほど頻繁ではないが先生の夢を見る。当然悪夢となって私はうなされるのであるが、先生が巡らして下さったバリアの中にいることを思い知る。

1990年当時、実践女子大学の被服生理衛生学研究室には本学会初代会長の吉田敬一先生がおられた。その上の階には被服人間工学研究室があつて飯塚幸子先生がおられた。私は防衛庁技術研究本部に勤務していた。勝浦先生から実践女子大学で会合がある、テニスができるぞ、水泳もできるぞと誘われた。たっぷり泳いで飲み会に参加したら、テニス服姿の美しい女性がいた。彼女の日晒けた太ももを見て私は神通力を失った。

縁とは不思議なものである。翌1991年、私は吉田先生の後任として本学に異動した。永井由

美子さん（旧姓渡辺）という助手が紹介された。それはかつてのテニス服姿の女性であった（彼女は現在、大阪教育大学教授である）。



吉田先生の71歳のお誕生日を祝う、後列右から飯塚先生、永井由美子先生、水野一枝先生、小林助手（当時）、三輪恵美子先生

飯塚先生、山崎、永井さんの三名は「七五三トリオ」と自称し、これを支払いの際の比率と決めていたが、大概は飯塚先生にお世話になった。その後、前田亜紀子さん（現在、群馬大学准教授）が助手となり、「新七五三トリオ」として各地を巡っていたのであるが、飯塚先生は本学学長に就任され、そちらの仕事が増えてしまった。

1995年、学部改組のドサクサに紛れ、研究室名称を「生理人類学研究室」に変更してもらった。さらに科目名称についても「生理人類学」「生理人類学実験」などに変更して今に至る。

生理人類学とは何か。私は長らくこれについて思案を続け倦むところがない。若い時分に「僕って何」と問うが如く、自身について問うのは若い学問特有の現象であると以前は思っていた。しかしこの頃、これなる学問が自身について問うのは宿命であり、また問い続ける必要があると思うようになった。

生理人類学を英訳した姿は「生理」が「人類学」を修飾しているようである。しかし実際は「生理」が「人類学」の膜に作用して透過性ないしバリア機能が変わり、様々な出入りが続き、進化しつつあるようにみえる。

専門を問われ「生理人類学です」と答えるとき、かつては人類学の素養がないことに負い目を感じた。しかしこの頃、人類学は生理人類学の一部であるような気がしている。特に海外で専門を問われた時、生理がくっついている意味について説明するハメになると面倒であるから「人類学です」と答え、平然と構えている。

自慢ばなしをしたい。今は昔、研究室のドア付近にひととき美しい女子学生が立っていて、先生だい好きです、と発して去って行った。その瞬間、私は魔法に掛かり、苦労はただの労となり、苦痛はただの痛となった。

「魔法の生理人類学」では研究費獲得レースに負けるだろうが、惹かれるテーマである。これは脳内快楽物質を垂れ流し状態にしたり枯渇させたりする作用かも知れない。呪いや祝福はエビジェネティックな現象といえるかも知れない。

この魔法はほどなく解けてしまったが、佐藤先生の魔法に掛かった者は既に顔つきが変わっており、それは子供や孫の世代にも遺伝しているようである。

【第12回国際生理人類学会議(ICPA2015)

開催のご案内】

勝浦哲夫（会議長）

ICPA2015 の開催もあと半年足らずに迫ってまいりました。本国際会議の開催に当たり最大の関心事の一つでありました科研費研究成果公開発表（C）の採択の通知が4月初めにあり、組織委員会委員の先生方共々安心し、胸を撫で下ろしたところであります。また、特別講演をお願いしておりましたセミール・ゼキ先生（ロンドン大学教授）の来日が確定したことも大変うれしいこ

とです。現在、組織委員会などで開催のための準備に総力を挙げて取り組んでいます。決定しましたことは順次、下記の ICPA2015 のホームページで公開致しますのでご覧下さい。

<http://web.apollon.nta.co.jp/icpa2015/>

現時点で確定しております事項を以下に示します。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

【会期】2015 年 10 月 27 日（火）～30 日（金）

【会場】東京ベイ幕張ホール（千葉市美浜区：JR 京葉線海浜幕張駅下車徒歩 5 分、下記 URL 参照）

<http://www.makuharihall.net/index.html>

【演題登録】2015 年 7 月 17 日（金）締切

演題は登録サイトで入力、Abstract は 200-300 語。

【参加登録】2015 年 8 月 31 日早期割引登録締切（会員 40,000 円、学生会員 20,000 円）、2015 年 9 月 30 日参加登録締切（会員 50,000 円、学生会員 30,000 円）。当日受付もごさいます。

【日程・プログラム概要】

- ・ **10 月 27 日** 参加登録、若手研究者研究交流会、歴代 IAPA 会長記念講演会、Welcome reception.
- ・ **10 月 28 日** 開会式、セッション 1 (Human variation in environmental adaptation; Dr. Saša Missoni and Prof. Douglas E. Crews), セッション 2 (Anthropology for biological locomotion; Dr. Herman Pontzer), ポスターセッション 1, セッション 3 (Adaptability and human brain function) 一般公開特別講演 (Prof. Semir Zeki)
- ・ **10 月 29 日** セッション 4 (Human phenotype and genetic variation; Dr. Yee How Say and Dr. Fook Tim Chew), セッション 5 (Human nutrition; Dr. Alan C. Logan), ポスターセッション 2, セッション 6 (Adaptability to lighting environment; Dr. Claude Gronfier)

Congress banquet

- ・ **10 月 30 日** セッション 7 (Adaptability to cold environment; Dr. Tiina Ikäheimo), セッション 8 (Methodological study of circulation; Prof. Junichiro Hayano, Dr. J. Andrew Taylor, and Dr. Can Ozan Tan), ポスターセッション 3, セッション 9 (Techno-adaptability to modern society; Dr. Sung-Phil Kim),

閉会式、エクスカーション

【書評】

「人間科学の百科事典」(日本生理人類学会編) 岩永光一(千葉大学大学院工学研究科)

日本生理人類学会の編集による第二弾の図書として、本年1月に「人間科学の百科事典」が丸善出版から発行されました。第一弾は、2009年10月に発行された「カラダの百科事典」です。これらの図書はいずれもタイトルに百科事典という言葉が使われていますが、項目の配列形式からすると、いわゆる大項目主義と小項目主義の中間的な形式として中項目主義の百科事典ということになるそうです。

「人間科学の百科事典」では、「ヒトの遺伝」に始まる10章について、全257の中項目に関する解説が596頁の本文に収められています。執筆者は、全員が日本生理人類学会の会員で、若手を含んだ気鋭の陣営となっています。1つの項目は、A5判の紙面2頁から3頁の読みやすい分量でまとめられており、単なる言葉の定義や使い方の解説に留まらずに、研究の歴史やこれから取り組むべき課題など、人間科学に関する読者の興味を奮い立たせるようなトピックスがちりばめられた内容になっています。

本書では、人間のカラダにまつわる章(「ヒトの遺伝」「カラダの構造」「カラダの機能」など)はもちろんのこと、生活や社会、文化といった広く人間研究の対象となる事柄についての章(「ヒトと環境」「ヒトの営み」「社会と文化」など)が設けられています。これは、「人間科学」を標榜する図書として当然の事のように思われるかもしれませんが、遺伝・環境・文化という3つの要素の上に人間(ヒト)が存在するという考え方は、実は自然人類学の基本的なアプローチを表しているのです。そのような意味から、日本生理人類学会の編集として発行されたこの本は、実は「生理人類学の百科事典」というタイトルがふさわしいと言っても言い過ぎではないと思っています。

また、この本には「ヒトを測る」という章も用意されており、生理、形態、心理などのヒトの測定法から統計的なデータ解析の基礎に至るまで、人間科学を学ぶ学生諸君や研究者の方々にとって至れり尽くせりの内容になっています。さらに、「人間科学の百科事典」の特徴の一つは、185頁にも及ぶ豊富な参考文献リストと和文と欧文

の事項索引、人名索引にあるといえるでしょう。本文自体も大変分かりやすく興味を引くものになっていますが、それをさらに深めるための資料やキーワードに関する情報も豊富に用意されています。

このように、「人間科学の百科事典」は、座右の書として常に手の届くところに置いておくには、ぴったりの本かもしれません。これから生理人類学を学ぼうとする学生の皆さんはもちろん、人間やそのカラダ、生活に興味を持つ一般の読者、さらには、様々な領域で人間科学に携わる研究者の皆さんに、まさにお勧めの一冊と言えるでしょう。

【研究奨励発表会報告】

2014年度研究奨励発表会(関西地区)

中村晴信(神戸大学)

今回で3回目となる研究奨励発表会(関西地区)が2015年2月7日に新神戸駅前のANAクラウンプラザホテル神戸で開催されました。前回までは至便性が高い大阪駅前での開催でしたが、今回は初めての神戸開催でしたので、果たして参加していただけるのかという不安がありました。今回は前回は上回る12件の演題エントリーがありました。関西地区の特徴として、件数に比し発表者の所属が多様であることが挙げられます。今回も、京都大学、大阪市立大学、大阪大学、九州大学、千葉大学、神戸大学、徳島文理大学と7大学からエントリーがありました。特に、徳島文理大学は四国からの記念すべき初参加となりました。発表テーマは、「嫌いな食べ物に対する感情および関連要因」、「抹茶飲用による抗ストレス効果について」、「障がい当事者の「語り」から見る障がい者雇用の現状と課題」、「表情と音声における情動知覚に対する事象関連電位と表情筋電図の反応」、「微小流体デバイスを用いた培養環境の制御、蛍光寿命計測による老化の評価」、「コヒーレント・ラマン散乱顕微鏡を用いた動脈硬化病変の観測」、「有節壁面パネルの観察がヒトの認知反応に及ぼす影響」、「木質壁面デザインが眼球停留関連電位(EFRP)および眼球運動に及ぼす影響」、「火災発生時避難誘導標識の視認性について」、「立位を取り入れたオフィスワークの有用性」というようにバラエティに富んでおりました。参加者も、修士課程院生に

加え、卒論発表を控えた学部4年生も5名発表しておりました。研究テーマは健康科学、福祉科学、芸術工学、工学、農学、生活科学など、多様性に富み、参加者にとっても初めて見聞きする内容でしたが、発表者である学生・院生のみならず、指導教員にとっても、意義深いものとなりました。

発表会終了後の懇親会は、新神戸から移動して三宮で行いました。いつものように、教員と学生が一緒にテーブルに座り、チーズフォンデュを囲んで、交流を温めました。発表内容について、研究室の様子について、大学生活について、卒業後のことについてなど、いろいろな話を聞くことができ、とても盛り上がりました。その後、2次会にも突入したようです。

研究奨励発表会は学部生や修士院生の発表の場として実施しております。発表者は必ずしも研究者になるというわけではなく、卒業後就職する方も多数いらっしゃいます。しかしながら、研究奨励発表会へ参加し、他の学生・教員と交流したことは、きっと今後の人生にとってプラスになるものと思います。

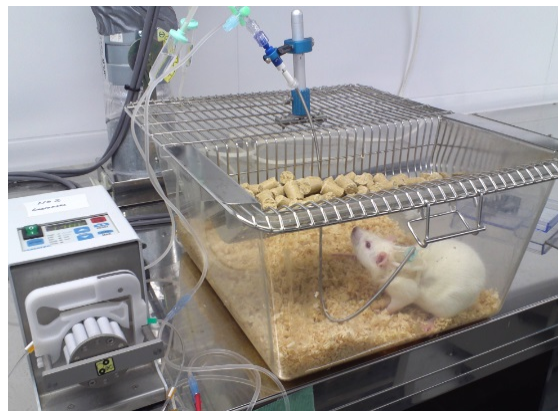
【研究室紹介】

太田英伸(国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 知的障害研究部)

今年は東京に異動してから丁度4年になります。北海道の田舎で育った私が東京でとにかく驚くのは、その積極的な雰囲気です。現在大学院生3人、ポスドク1名で研究していますが、「興味があるので、いっしょに研究したい」とメールで直接コンタクトして頂いた方もいました。また別の日にメールを開けると、海外コンサルティングと名乗る会社から連絡が入っていて、「企業があなたとの共同研究を希望している」というメッセージがありました。完全に詐欺だと思っていたところ、実は正式な研究オファーで、東京ではドラマのようなことが起こるものだと更に驚きました。

私達の研究テーマは、「子宮の中の胎児と同じように早産児の赤ちゃんを育てる方法を開発すること」です。早く生まれるということは、胎児にとって、成長にベストなお母さんの子宮から離れ、保育器という人工環境で育つことを意味します。残念ながら、自分たちが現在提供できる

人工環境は、お母さんの子宮にはとてもかきません。そのため、全ての赤ちゃんではないのですが、早産児は運動や知的な発達が満期産児より遅い傾向があります。この問題を解決するため、保育器の中で赤ちゃんが経験する温度・湿度・呼吸ガス・栄養・光といった環境を操作して発達を促しています。



人工血管を介してラットの体内環境を制御中

生理人類学会では、このような環境因子のうち、光環境について発表する機会をこれまで頂きました。光はとても面白い情報を生体に伝えていて、物を見るという視覚情報だけでなく、睡眠や栄養代謝を支える「体内時計」を制御しています。この光の性質をうまく利用すると、胎児が母親から受け取るホルモン情報の代わりに、光の情報で早産児の生物時計を駆動させ、睡眠や成長を促すことができます。



新生児用照明の開発

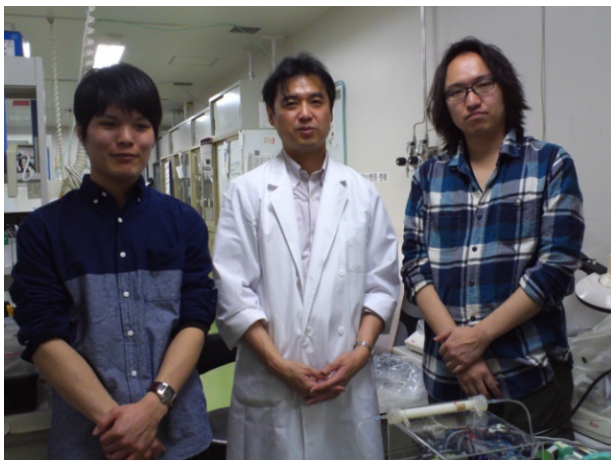
(※ 印刷用に元画像の明度を高くしています)

このような研究テーマを追究するため、私達は臨床研究と動物モデル研究の両方を行っています。多くの研究のきっかけは、赤ちゃんの観察と論文で読む臨床研究の結果です。その結果の背後にある生体機構を確かめ、環境因子を操作する度合いを決めるため、動物実験を行います。新生児医療の対象は妊娠 22 週以降に生まれた早産児で、その頃の赤ちゃんの体重は約 500g です。このサイズはラットのオスの体重とほぼ同じこととなります。私達は、人工臓器・人工体液・LED といった技術でラットの生体を制御して、赤ちゃんの発達に応用できる環境を探っています。最近、光以外にも、メラトニンを含んだ栄養輸液や食品を使って体内時計を操作できないか、検討しています。

2014 年は、光環境が早産児の睡眠・成長に与える影響を確かめることに一段落ついた年でした。職場・学会の先輩・同輩・後輩に助けられながら、駆けずり回っていた感が強い忙しい 10 年でしたが、少しだけ赤ちゃんにいいことができたかな、と思えた、悪くない 10 年でした。次の 10 年も、赤ちゃんを見つめ、論文に隠れたヒントを楽しみながら、赤ちゃんに有益なアイデアを粘り強く積極的に確かめたいと思います。

また、我々の研究活動に興味がある大学院生やポスドク、流動研究員などの皆様の入室希望者を今後も積極的に募り、全力で研究活動のサポートを行っていきたいと考えております。詳細は研究所 HP をご覧下さい。

<http://www.ncnp.go.jp/nimh/division/chiteki.html>



動物実験と臨床研究を併行させているラボです。

【遺伝子多型に関する生理人類学研究の展望】

(研究満喫)

本井碧 (九州大学)

本年 3 月に九州大学大学院を修了致しました。指導教員・主査として、学部から 6 年間に渡り遅筆な私を忍耐強くご指導下さいました綿貫茂喜先生には、感謝してもしきれません。同学年に素晴らしい業績と共に学位を取得された方々がおられる中で、前若手の会々長として、この場をお借りして日本生理人類学会の皆様に御報告させて頂きます。

代替わりして、現在は 9 代目となった若手の会々長ですが、おそらく後にも先にも私が最年少、さらに学位取得前であり、先生方にご心配をお掛けしたのですが、学会を通じて得難い経験をさせて頂いたことを感謝しております。もともと、4 年生の時にお会いした先生方の情熱に魅力を感じ研究者を志した私ですが、卒業研究でのミトコンドリア DNA ハプロタイプと形態的多様性との出会いを始めとして、日々の研究は思うように進まず、モチベーションを保つのが難しく思っていました。しかしながら、半年に一度の学会で多くの先生方から暖かい励ましと適切なアドバイスを頂き、次回はもっと良い報告をしたいという励みになりました。また口下手で引っ込み思案な性格であり、研究者として外向性が足りないと感じていたのですが、「若手の会のため」という大義名分を与えて下さったおかげで、他分野の学会に参加して研究者の方に質問をしたり、領域にとらわれず広い視野を持って勉強させて頂くことができました。懇親会の後、深夜まで熱く「ヒト」について分野を超えて議論する先生方のお姿に、自らの初心を思い出し、原点に立ち返って見つめ直す機会を頂きました。ありがとうございました。

博士学位論文は、視聴覚刺激に対する生理心理反応について、行動抑制・賦活に関わる性格特性とセロトニントランスポーター遺伝子多型の関連を検討したものです。特にこの遺伝子多型については、近年環境と遺伝の交互作用について注目されつつある指標であり、文化形成への関与も示唆されています。将来的に脳活動などの生理的多形性に関して、環境・文化・遺伝の要素からの表現型への影響について、生理人類学的な探究に貢献できると考えております。今後

の研究成果も論文や学会で発表していけるように頑張りたいと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。

【Frontiers in Physiological Anthropology】

(神戸国際シンポジウム傍聴記)

元村祐貴 (国立精神・神経医療研究センター)

3月の神戸、肌寒く小雨の降る中での開催となりましたが、生憎の天気を忘れさせるほど、私にとって刺激的なシンポジウムでした。国内で世界最先端の研究に触れることが出来る貴重な機会ということで、意気揚々と神戸へ赴きました。

シンポジストの先生方は錚々たる面子、というのがふさわしいほどにグローバルにご活躍されている先生方で、その発表スライドの基となった論文の多くが高インパクトファクターの有力誌であったことが印象に残っています。私の英語力の問題で聞き取りに苦労しましたが、それでも先生方の研究発表はやはり魅力的でした。中でも、褐色脂肪細胞の研究をされていた van Marken Lichtenbelt 先生の発表は、私のような専門外の者にも研究当時の高揚感がひしひしと伝わってきたのを覚えています。



神戸国際シンポジウムの様子

そのように多くのジャンルで最先端の話を聞くことが出来たのも、今回のシンポジウムでの収穫でした。自身の専門でない分野の発表では馴染みの薄い専門用語が飛び交い、(英語であったものもあり)理解が難しい部分もありましたが、様々な分野の知識を吸収しようと努めました。本学会の特長ともいえる幅広いバラエティの研究を、世界のレベルで聴くことの出来る、大変重要な機会であったと感じております。

また座長からの質問がほとんどなく、次々と

質問するシンポジストの印象が強く残っています。その積極的な姿勢が新たな発見の支えとなっているのを感じておりました。私も負けまいと質問に挑戦しましたが、我ながら非常に拙い英語の質問となってしまう、語学の修得も含めて留学を決意した次第であります。

さらに、懇親会も神戸の素晴らしい料理とともに、私にとって印象深いものになりました。というのも、私と非常に近い分野で研究されている Veronique Danault 先生と懇親会で話す機会があり、最新の研究動向について何うことが出来たためです。さらには研究での国際コラボレーションが出来るかもしれない、という話になり、非常に興奮しております。

以上のように、今回の国際シンポジウムは様々な面で非常に意義深いものでした。今回得たものを今後の研究のモチベーションとして、日々の活動に還元していきたいと思っております。最後に、このように非常に素晴らしいシンポジウムに参加できたこと、企画、運営にご尽力されていた古賀俊策先生、事務局の先生方に感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

from Editors

次号No.3の原稿締切は2015年7月31日です。

▽ 役員が改選されました。この二年間、高い企画力と迅速な行動力を持つ小崎理事に何度も助けられ、「私の生理人類学」や「研究室紹介」などの新企画を無事達成することが出来ました。この場を借りて小崎理事に厚く御礼申し上げます。尚、小崎理事はその類稀な行動力を評価され、学会大会開催を側面支援するために新設された「大会担当理事」に抜擢されました。既に72回札幌大会やICPA2015に向けて体勢を整えているとのことでした。また、新任の会報担当理事として、HP担当理事であった仲村匡司先生(京都大学)をお迎えします。仲村理事は二年前までの編集長でもあり、通算3期目のベテラン編集者でもあります。なお、引き続き小生(安陪)も会報担当を務めさせていただきます。何卒宜しくお願い申し上げます。(安陪)

▽ 役員改選により、本号が最後の編集担当となりました。初めて会報編集を担当し、何かとわか

らないことが多く、その都度、安陪理事に助けて
いただきまして、何とか2年間の編集作業をこな
すことができました。安陪理事にはこの場を借
りて感謝申し上げます。また、これまでご寄稿頂
きました会員の皆様にも改めて御礼申し上げま
す。今後は大会担当として、会員の皆様に満足し
て頂ける大会運営のお手伝いを致します。大会
にて皆様にお会いできることを楽しみにしてお
ります。今後よろしくお願い申し上げます。

「匙なめて 童樂しも 夏氷（山口誓子）」（小崎）

▽ PANews 編集事務局（2015 年 5 月以降）

仲村 匡司 京都大学大学院 農学研究科

安陪大治郎 九州産業大学 健康・スポーツ科学センター

メールアドレス panews@jspa.net

cc. abed@ip.kyusan-u.ac.jp

cc. nakamasa@kais.kyoto-u.ac.jp

※お問い合わせなどは、上記のメールアドレスに
加え、編集委員のメールアドレスを cc.に付け
て御連絡願います。